

対話で紡ぐ新得の未来：第9期総合計 画・審査特別委員会ハイライト

令和8年度始動・10年間の羅針盤をめぐる「理想」と「現実」の議論

審査日：令和8年1月20日 | 場所：新得町議会

予測困難な時代の「羅針盤」： 第9期総合計画の全容

基本情報

* 計画期間

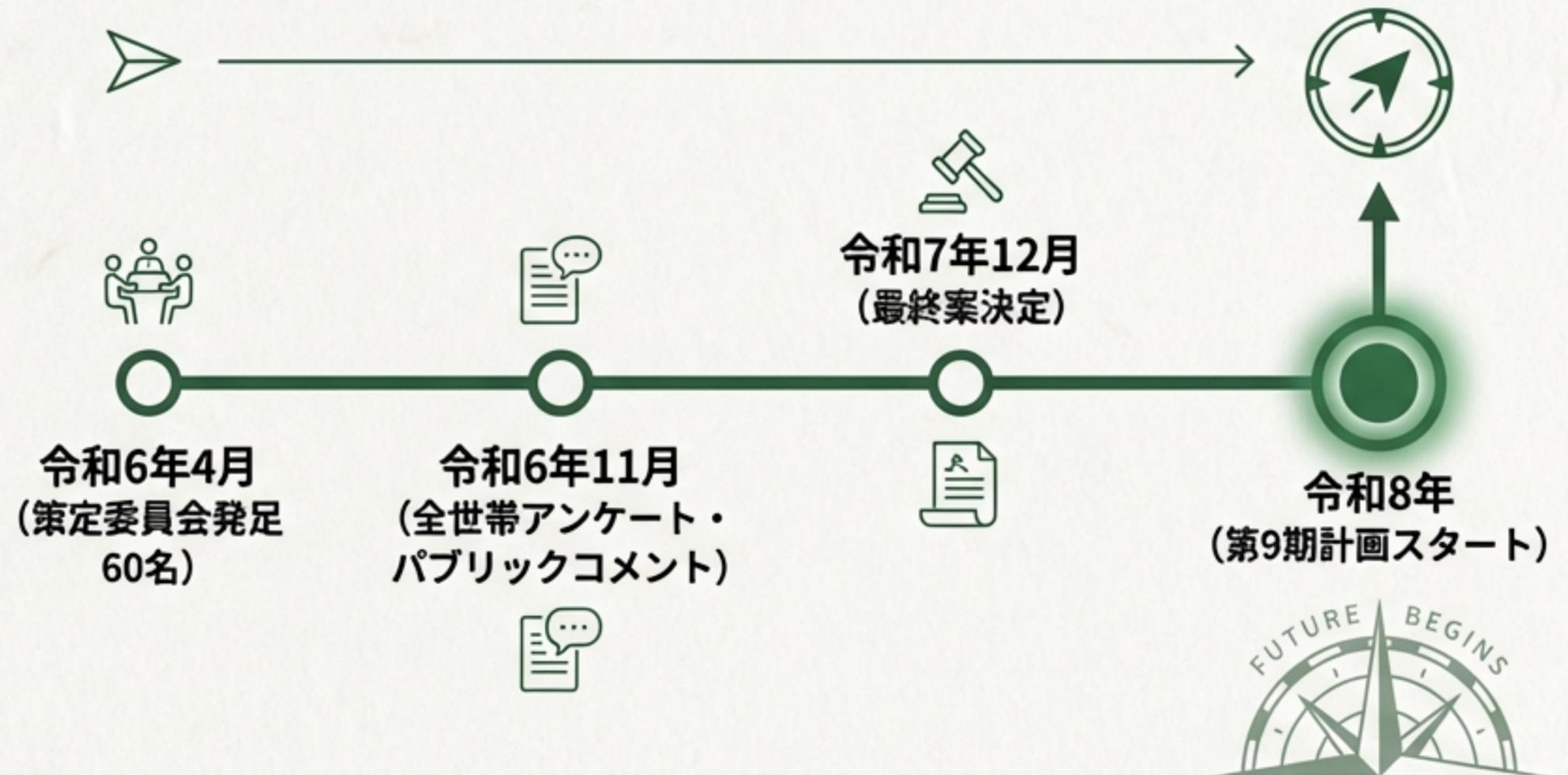
令和8年度（2026年）～令和17
年度（2035年）までの10年間

* メインテーマ

「人がつながり 未来につなげる
心地よいまち」

* 歴史

昭和46年から続く総合計画のバ
トン



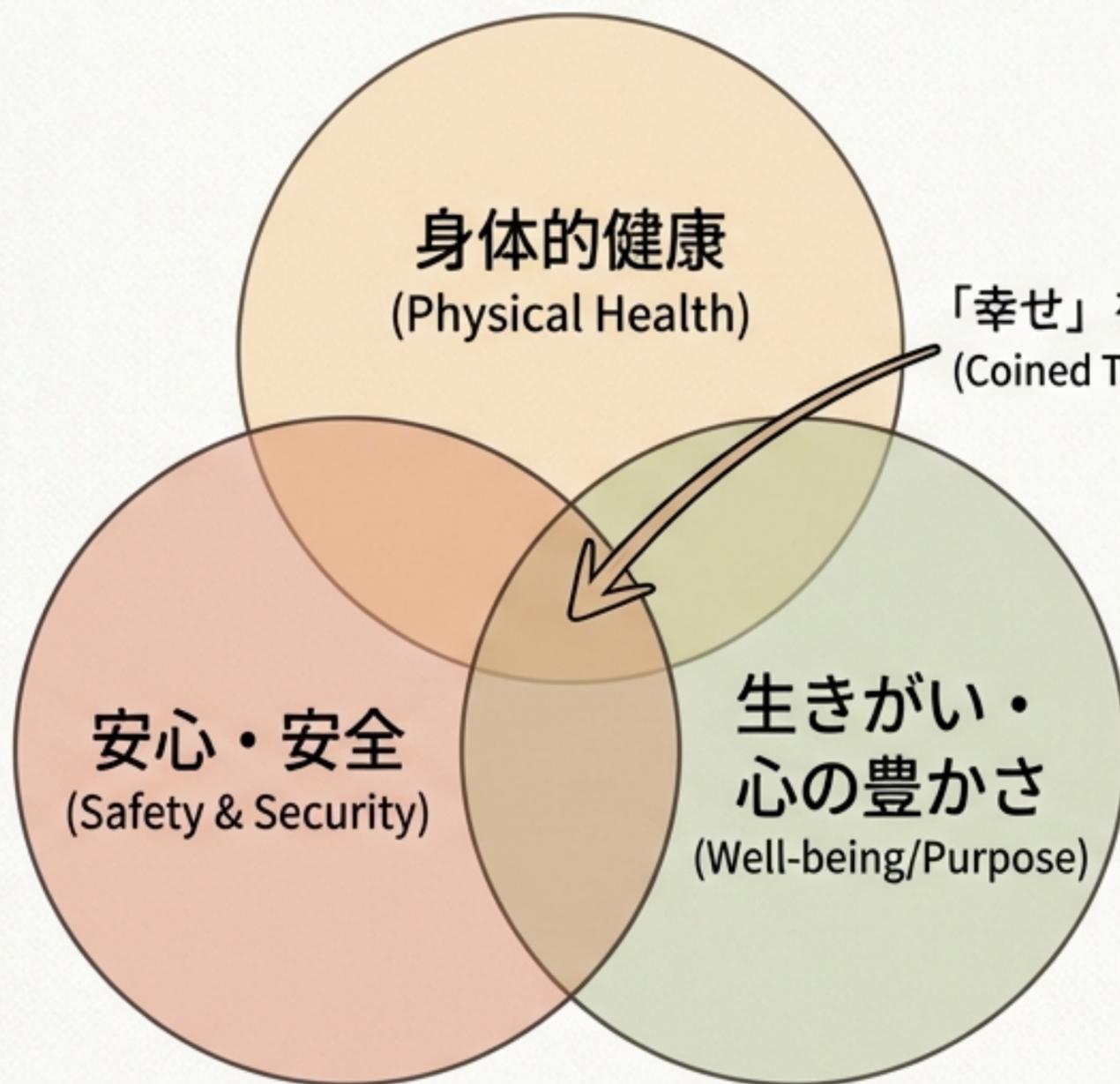
人口減少と社会変革の中で、
行政は「定住」と「幸福」を再定義する10年へ。

「健康」の再定義：それは単なる身体の話ではない

新得流・健康（幸せ）

【佐藤委員の質疑】

「健康まちづくり」が保健福祉分野（第2部）に位置づけられているが、これは産業や教育を含む「最上位概念」ではないか？



「幸せ」を含む増語 **行政の回答**
(Coined Term)

第2部（保険福祉）にあるが、概念としては全分野（産業・防災・教育）を貫くテーマである。

言葉の壁を越えて：町民の腹落ちする「健康」へ

【課題：言葉のギャップ】

「健康」という言葉だけでは、町民は「病院・病気の話」と受け取ってしまうリスクがある。

「町民が見た時に『何のこと？』とならないよう、用語解説や丁寧な周知が必要」(佐藤委員)



【行政のアクション】

* 継続的な周知：計画を作っても終わりではなく、広報等で「健康＝幸せ」という概念を浸透させる。

* 次なるステップ：令和8年度に「健康推進計画」を策定予定。



行政用語を、町民の「実感」へ翻訳する努力が求められている。

コミュニティの岐路：町内会は『義務』か『絆』か

「行政の対策」



- * 転入時の窓口での加入PR
- * アパートオーナーへの協力依頼
- * 建築確認時の働きかけ



「現場の現実」



- * 担い手不足による解散の危機
- * ライフスタイルの変化と『強制』への抵抗感

【佐藤委員の指摘】単なる加入促進PRで解決するのか？行政として『なぜ町内会が必要か』を再整理し、メリットを明確化すべきではないか。

「支援」というレッテルか、「個性」という翼か

「『支援が必要』という言葉が、子供の自己肯定感を下げているか？」
(中村委員)

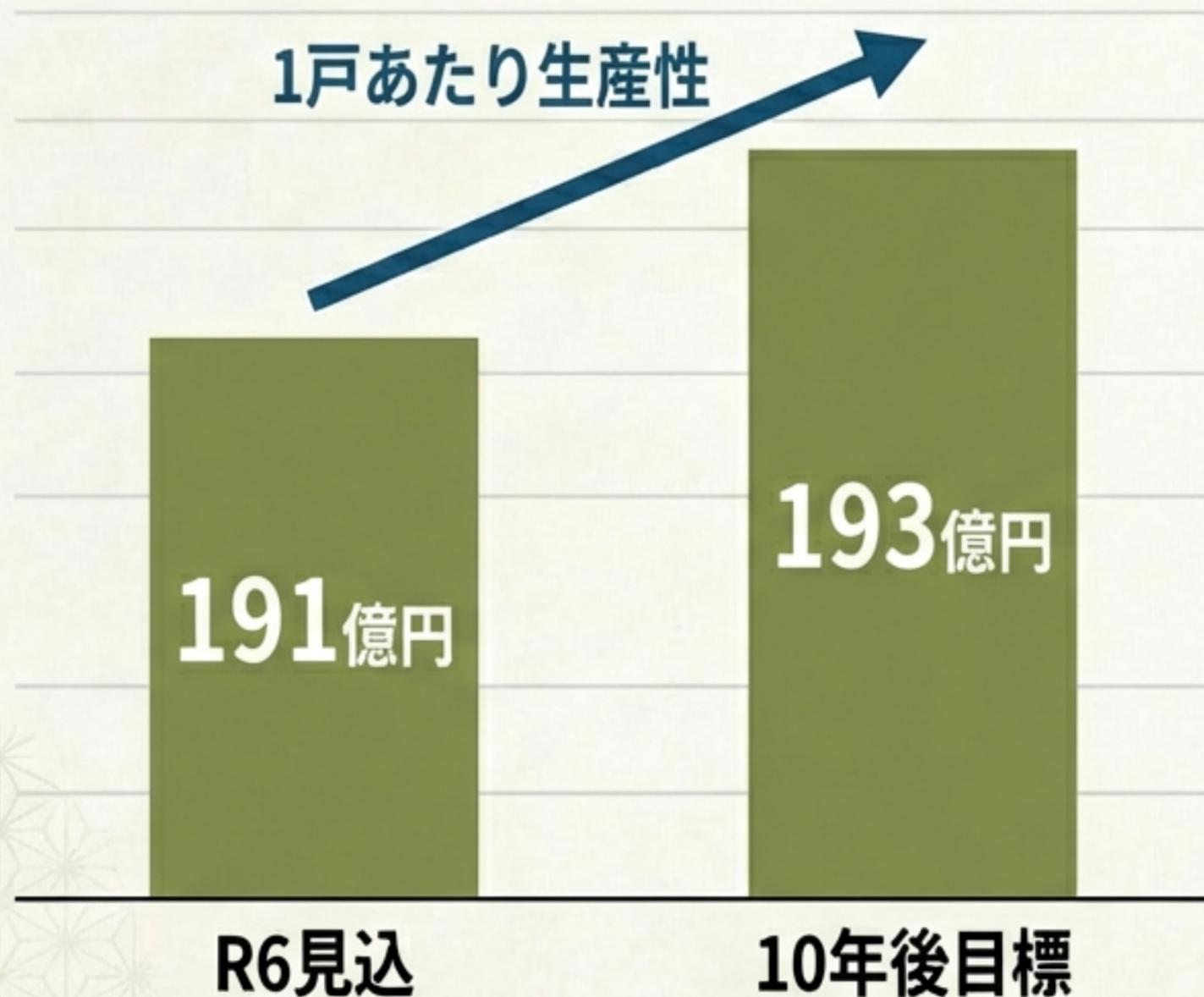


現場の眼差し (行政回答)

制度上は「支援」という言葉を使用するが、現場では「その子の強み (ユニークさ)」を見極める。「昆虫に詳しい」「絵が得意」——個性を自信につなげる関わりを重視する。

農業生産額193億円の攻防：数字の裏にある「野心」

農業生産額と1戸あたり生産性



【議論の焦点】

- Q: 10年で1%増は保守的すぎないか？
農協外の生産額が含まれていないのでは？（岡村委員・福原委員）
- A: 算出可能な確実な数値（農協取扱高）を採用。

【真の狙い】

農家戸数が減少（目標96戸）する中で総額を維持するには、**1戸あたり生産性を約1割向上**させる必要がある。これは極めて高いハードルである。

変わりゆく大地と担い手：気候変動・マルチワーカー

気候変動への適応



- 温暖化により寒冷地作物（ビート・馬鈴薯）が難化。
- 新規作物（さつまいも・落花生等）の可能性を模索。（初山委員）



レディースファームスクール (30周年)



- ネット情報の時代、「体験」だけで人は来るか？
- 役割の再定義が求められている。



新しい働き方



- 「マルチワーカー」の育成
- 夏は農業 × 冬は観光/林業



スマート農業



- 労働力不足を捕う技術導入の加速



観光への危機感：組織改革は待ったなし

満足度
25%

(観光振興に関する町民評価)

【桜田委員の提言】

「町民自身が魅力を実感していない。観光協会を解体し、役場内に若い力を結集した『観光課』を新設してはどうか？」

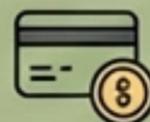
【行政の現状認識】

- まずは現体制での「外からの誘客」強化を図る。
- 組織改編より運用の改善を優先するが、危機感は共有。

森林の価値を「お金」と「形」に変える



森林由来J-クレジット



町有林



令和8年度の発行を目指し、
国と手続き中。購入希望先
と交渉段階。



民有林



60数km²の広大な民有林も、
町がサポートしクレジット
化を促進。



公共施設への木材活用



新温浴施設

湿気・構造上の理由でRC造
(鉄筋コンクリート)を採用。



道の駅 (計画中)

木造建築を予定。道産材・
町産材の積極活用へ。

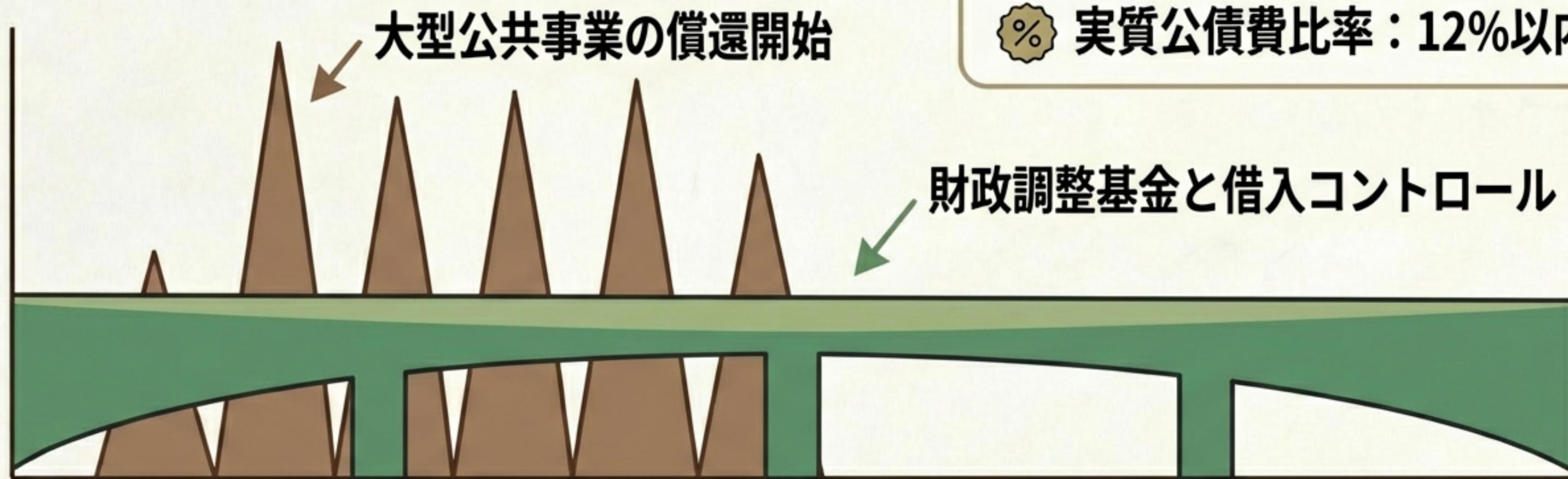
財政の健全性：大型事業後の「守り」と「平準化」



経常収支比率：84%以内



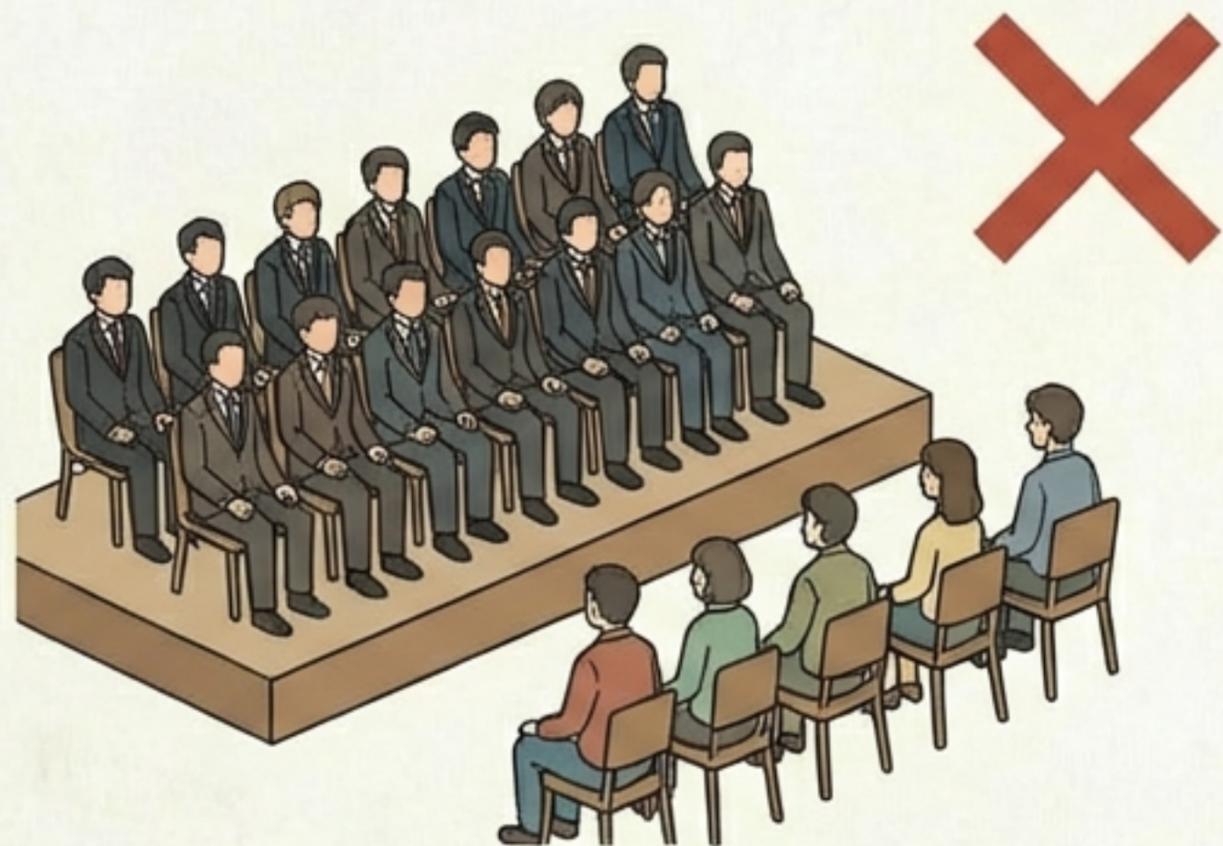
実質公債費比率：12%以内



【森本委員の視点】

他町村との比較ではなく、災害時などに動ける「余力」をどう確保するかが重要。

形式的な「参加」からの脱却



行政の圧 / 形式的な会議

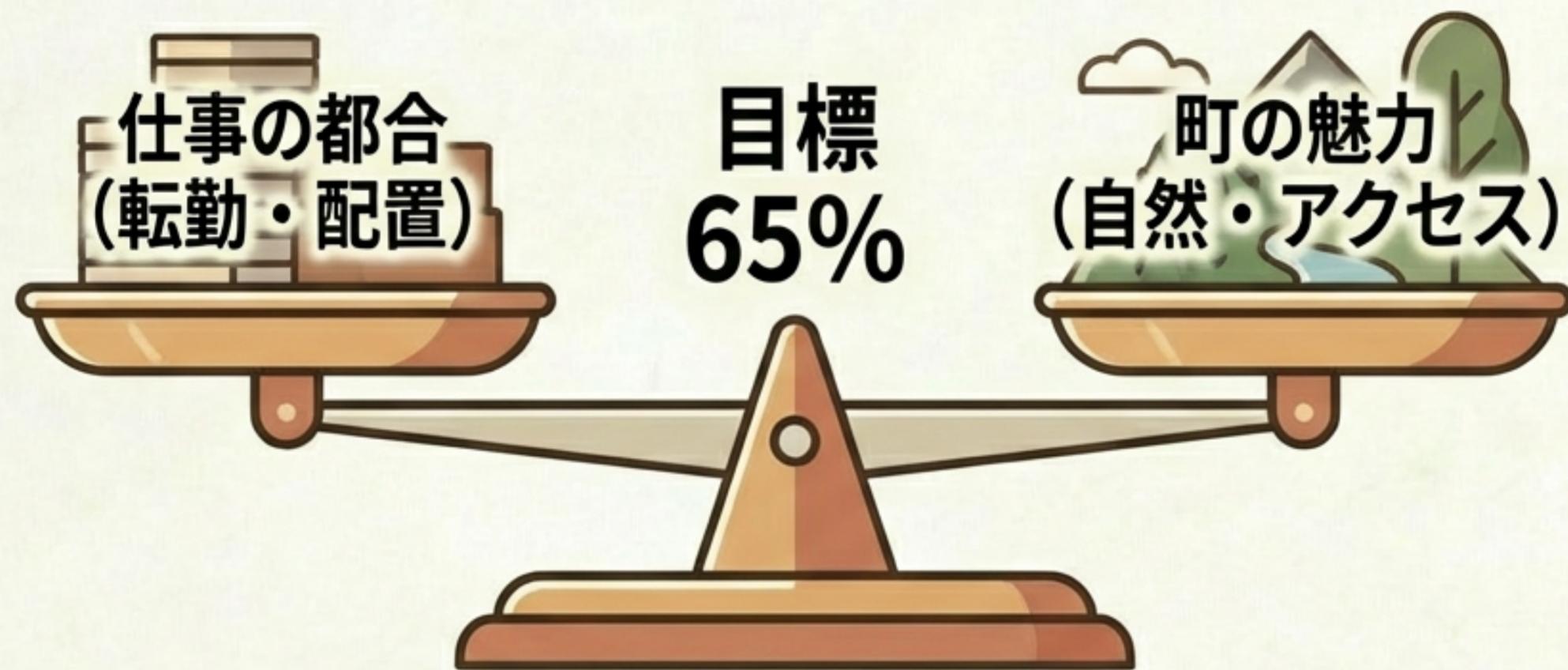


対話 / フィードバック

【課題と改善】

- 公募委員が少ない（目標2名→3名）。
- 「意見を聞いて終わり」にせず、結果をフィードバックする循環を作る。
- 行政側の出席人数を絞り、発言しやすい雰囲気へ。

「住み続けたい」 65%は妥当か、諦めか



【青柳委員】 「目標値が低すぎる。帯広と比較して卑下する必要はない。」

【行政の回答】

「転出入の多くは仕事の詳細という現実がある。しかし、心情としては100%を目指す。新得ならではの『交通結節点』『自然』を再評価する。」

実現へのロードマップ：計画を『絵に描いた餅』にしないために

基本構想（10年）：大きな方向性



基本計画（前期5年）：具体的な施策



実施計画（毎年）：予算と連動したアクション&PDCAサイクル

令和8年度：「健康推進計画」策定

『健康＝幸せ』の具体策が動き出す。

私たちが目指す「新得」：人がつながり、未来へ

「人がつながり 未来につなげる 心地よいまち」



計画は行政だけで作るものではない。議会の厳しい「精査」と、町民の「参加」があって初めて、この羅針盤は機能する。